

教材・支援機器活用実践事例フォーマット(特別支援学校版)

*この資料は、Webで公開することを前提にしています。生徒の個人情報公開の確認を取るか、個人が特定できないように作成するか、注意してください。

	実践年度	平成28年度
参加する授業について	教科名等 (該当する教科名等を選択。当てはまらない場合はその他を選択し、次の単元・題材名の欄に記入。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input type="checkbox"/> その他()
	単元・題材名	日記をつけよう
	授業の目標	身近な出来事や気持ちを短い文章で表現し、発表することができる。
	観点別学習状況の評価の観点 (教科の特性により設定した観点がある場合は「その他」を選択し記載。)	<input type="checkbox"/> 「知識・理解」 <input checked="" type="checkbox"/> 「技能」 <input type="checkbox"/> 「思考・判断・表現」 <input type="checkbox"/> 「関心・意欲・態度」 <input type="checkbox"/> その他()
	自立活動の要素	<input type="checkbox"/> 「健康の保持」 <input type="checkbox"/> 「心理的な安定」 <input checked="" type="checkbox"/> 「人間関係の形成」 <input type="checkbox"/> 「環境の把握」 <input type="checkbox"/> 「身体の動き」 <input type="checkbox"/> 「コミュニケーション」
学習(集団)の実態	学部・学年・人数	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input checked="" type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input type="checkbox"/> LD(学習障害) <input type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/> その他
子どもの実態	子どもの課題(特性・ニーズ)	<input type="checkbox"/> 聞く <input checked="" type="checkbox"/> 読む <input checked="" type="checkbox"/> 見る <input type="checkbox"/> 話す <input type="checkbox"/> 書く <input type="checkbox"/> 運動と姿勢 <input type="checkbox"/> 計算する <input type="checkbox"/> 推論する <input type="checkbox"/> 日常生活活動 <input type="checkbox"/> 社会的・コミュニケーション <input type="checkbox"/> 不注意 <input type="checkbox"/> 多動性・衝動性 <input type="checkbox"/> 覚える・理解する <input type="checkbox"/> 時間的・空間的・人的交流の制約 <input type="checkbox"/> その他 ・身体の麻痺により、文章を書く際には代筆による支援が必要。 ・文章を読んで理解することより、聞いて理解することの方が得意である。 ・文章を自分で書いた経験がほとんどないため、文字を入力した際には誤字や脱字が多い。 ・代筆による支援を受けてきたため、自分の文章を読み返す習慣ができていない。
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称 (使用した支援機器・教材の名称を記載。なお、特定の製品に特化した実践の場合は製品名を記載。)	iPadを使用した。 ※使用したアプリ(Keynote、カメラ、メモ)
	活用のねらい	Aコミュニケーション支援(<input type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援)B活動支援(<input type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援)C学習支援(<input checked="" type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input type="checkbox"/> C3社会生活支援) 代筆による支援から自分で文章を入力することで、自分の書いたものを確かめたり、自分で訂正したり、書き直したりするなど、考えを深めることをねらいとした。
	活用方法	iPadを活用し、代筆による支援から自分で文章を入力してもらえよう環境設定を行った。 ①Keynoteアプリを使って身近な出来事を書き留める日記指導を行った。(「書く」) ②自分が入力した文章にカメラアプリで撮った写真を挿入し、相手に伝わりやすいスライドを作った。(「読む」・「書く」) (※就業体験期間中は国語の時間がなく、授業で取り組むことができなかったため、就業体験の担当に協力を依頼し、スライド作成に取り組んでもらった。) ③作ったスライドを提示しながら自分の言葉で説明するプレゼン指導を行った。(「聞く・話す」) ④就業体験報告会を活用して他学年の生徒や職員、保護者に聞いてもらった。(「聞く・話す」)
効果・評価	ICTを活用した授業での子どもの様子や変容および授業の評価	・これまで代筆による支援が無ければ文章を文字に表現することができなかった生徒が、自分に合った方法で、自分の気持ちや考えたことを書き留め、読み返し、より良い表現に直すことができるようになった。 ・相手に分かりやすく伝えるために、「こんな写真を使いたい」、「～のような写真を使うのはどう思いますか」など、生徒が積極的に発言するようになった。 ・考えたことを周りに認めてもらう機会を多く作ったことで、生徒たちは自分が表現したものに自信を持ち、自分の気持ちや考えを人に伝えることに対して意欲を持ったのではないかと考えます。
資料	図・写真・表等はこちらへ貼り付けてください。 (生徒の写真は個人情報公開の確認を取っているものとする。)	 <p>生徒が作ったスライドを周りの人に発表する</p>  <p>写真1:生徒が作成したスライド</p> <p>写真2:スライドを使ってプレゼンテーションする様子</p>